

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう 147

セスジツユムシ

分類 バッタ目 ツユムシ科

大きさ：33～47mm

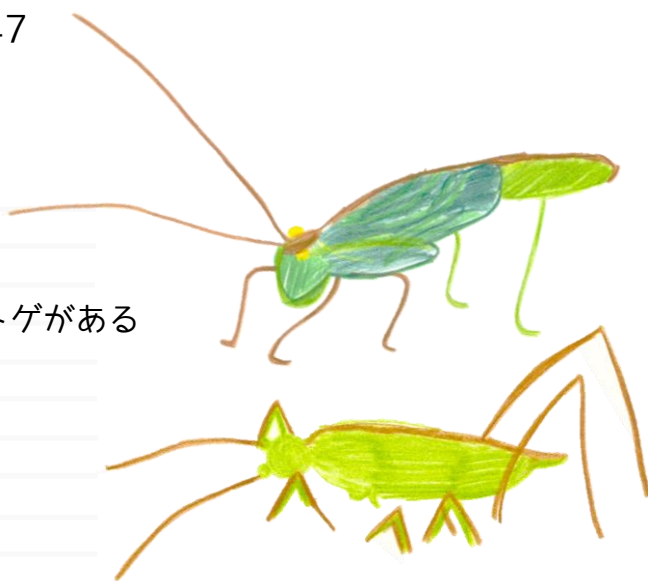
鳴き声：チキーチキー、ジー

特徴：・ツユムシと違い、後ろ足にトゲがある
・夜に活動する

小鳥の森で見られる時期

・晩夏から晩秋まで

小鳥の森で見られる場所

・草丈のある開けた草原
(かんさつ広場など)

上：かとう はなえ さん (8才)

下：かとう あんな さん (6才) が描いてくれました。

9月 いきもの森予報



エンマコオロギ



クサキリ

夜を鳴きとおす虫の「声」のひみつ

夜になるのがだんだん早くなる9月。園内ではコオロギやキリギリスの仲間の声が夕方ごろから聞こえます。この「声」、じつは口からは出ていません。2枚の翅（はね）をこすり合わせて出す「音」なのです。片方の翅にギザギザの「ヤスリ器」、もう片方の翅にデコボコした「マサツ器」があります。この2つの部分をすばやくこすり、さらに翅全体を震わせることでキレイで大きな音を奏でているのです。

コオロギやキリギリスは仲間とコミュニケーションを取るためにこの音を使っています。鳴くのはオスだけ。場合によって鳴き方を使い分けています。たとえばエンマコオロギは①なわばりを知らせる「コロコロコロ」②ケンカをする②「キリキリキリ」③メスにアピールする「コロコロリー」。

他にも小鳥の森にはシバズズ、ハヤシノウマオイ、クサキリなど鳴く虫がたくさん住んでいます。みなさんも「虫の声」で秋を感じてくださいね。

夏の暑さにも負けず

今年も猛暑日（もうしょび（最高気温が35℃以上の日））が続いた小鳥の森の8月でした。その暑さにも負けず森の中にひびき渡るにぎやかなセミの声。朝の早い時間や夕方にはヒグラシ。日中はミンミンゼミやアブラセミの合唱が聞こえてきました。他にもトンボやチョウの仲間などたくさんの昆虫を観察することができました。

植物たちも負けてはいません。元気に花を咲かせ夏の森をいろどっていました。オレンジ色があざやかなキツネノカミソリは花火のようにパツと花を咲かせていました。細長い葉の形がカミソリに似ていること、花の色がキツネに似ていることから名前がついたと言われています。小径を歩く足元には、すずしげな薄むらさき色のコバギボウシが。トランペットの先が割れたような形をした花で少し下を向いて咲きます。内がわにストライプ柄があるオシャレな花です。

暑さにぐったりした気持ちを、生き物たちが回復してくれました。

ミンミンゼミ



オオシオカラトンボ



キツネノカミソリ



コバギボウシ



自然のお便り

もうひとつの臉（まぶた）

枝に止まったカラスの写真をよく見てみると…白目になってる！不気味な変顔？いえいえ、これは「まばたき」の写真です。ヒトには無い「瞬膜（しゅんまく）」が閉じた決定的瞬間（けっていてきしゅんかん）なんです。瞬膜は臉と眼球の間にある膜です。臉は上下に動きますが、瞬膜は左右に動きます。どちらも眼球にゴミが入るのを防いだり乾燥から守る役割などをしています。まぶたとの違いは光を通すこと。閉じても真っ暗にはなりません。えものを狩るなどはげしい活動をしながらかも眼球を守ることができるのです。カラスの瞬膜は白色ですが、生き物によって半透明やピンク色など様々です。ぜひ調べてみてくださいね。



瞬膜なし



瞬膜あり

イベント報告

夜間昆虫観察会と昆虫標本作り

7月20日（土）に夜間昆虫観察会、8月4日（日）に昆虫標本作りを行いました。

夜間昆虫観察ではライトトラップを設置し、光に集まる昆虫を観察しました。セミやガ、コガネムシなど様々な昆虫を観察することができました。

昆虫標本作りではカブトムシの標本作成に挑戦しました。足の形を丁寧にまち針で支えて整える「展足（てんそく）」。何度も微調整をしながら納得のいく形に仕上げていました。



夜間昆虫観察会



昆虫標本づくり

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧になれます。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口市宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2024年9月号№458 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / NPO法人野鳥の会ふくしま

